平成31年４月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第656号

林業福島

No. 656

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

4
2019

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■春　や　す　ら　ぎ

第１回ふくしま植樹祭

豊かで活力ある森林を次の世代へ

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋　藤　卓　夫

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会の運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、昨年六月には、皆様のご協力により、「第六九回全国植樹祭」が南相馬市原町区で、「第四七回全国林業後継者大会」がいわき市で開催され、本県の復興に向けて力強く歩み続ける姿や国内外から寄せられた支援に対する感謝の気持ちを広く発信することができました。さらに、全国植樹祭の開催理念を引き継ぎ、未来へつなぐ希望の森林づくりを発展させていくため、十一月に「第一回ふくしま植樹祭」を南相馬市鹿島区で開催し、県内外から三、〇〇〇人を超えるご参加をいただきました。皆様のご支援とご協力に改めて御礼申し上げます。

他方、本県森林・林業の東日本大震災や原発事故からの復興は、復興・創生期間終了までの十年間で解決できるものではなく、復興を一層加速するとともに、平成三三年度以降も切れ目なく森林整備の推進や風評の払拭、林業担い手の確保・育成、きのこ類の生産振興などの課題に取り組んでいかなければなりません。引き続き国、県など関係機関のご理解を得ながら森林・林業の再生を成し遂げていきたいと考えております。

また国におきましては、昨年五月に成立した「森林経営管理法」が四月に施行され、林業の持続的発展と森林の多面的機能の発揮に資する「新たな森林管理システム」がスタートしました。昨年末、パリ協定の実施指針等が採択され、地球温暖化防止に向けて森林整備の推進が引き続き強く求められておりますが、これが着実に進むよう市町村と今まで以上に連携を強化していく考えであります。

当協会は、今後も県内森林・林業関係団体との連携を強化しつつ、全国植樹祭や全国林業後継者大会の成果が次の世代に確実に継承されるよう、「キラリ！森林（もり）づくり」をキャッチフレーズに、人づくり（森林整備の推進と森林・林業の振興）、心づくり（緑化の推進）、産地づくり（きのこ類の振興）及び県土づくり（測量設計調査等の実施）の四つの柱で各種事業を積極的に展開してまいりますので、皆様の一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

《も　く　じ》

とびら
豊かで活力ある森林を次の世代へ
　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
　　会長　齋　藤　卓　夫……１
平成31年度県林業関係当初予算……２～６
平成30年度福島県きのこセミナーを開催…７
第32回きのこ料理コンクール全国大会で入賞…７
普及指導員通信……８
森林管理署メモ……９
木連だより……10
木の文化を育む①……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

平成三一年度県林業関係当初予算

森林づくりの計画・調整

▼森林計画課

森林計画課は、森林計画関係（地域森林計画、市町村森林整備計画、森林経営計画、森林審議会、国有林との調整等）、森林環境税の総合調整、森林整備地域活動支援交付金事業及び森林林業関係各課の調整業務を担当しております。

■平成三一年度予算

○県総予算（一般会計）

一、四六〇、三二八百万円

（対前年比一〇〇・九パーセント）

○農林水産部予算（一般会計）

一一九、四二九百万円

（対前年比八七・四パーセント）

○森林林業関係予算（一般会計）

二四、九〇四百万円

（対前年比八一・七パーセント）

今年度の農林水産部の当初予算については、福島県農林水産振興計画「ふくしま農林水産業新生プラン」のめざす姿の実現に向けて、重点戦略に掲げる「避難地域における農林水産業再生プロジェクト」を始めとする九つのプロジェクトを重点的・戦略的に推進するとともに、「東日本大震災及び原子力災害からの復興」を始めとする七つの施策の展開方向を柱に編成しています。

■森林環境税を財源とする事業

森林環境基金事業

森林との豊かな関わりを未来の子どもたちへ引き継いでいくため、森林環境税を導入し、全ての県民と企業の皆さまに支えていただきながら、「県民一人一人が参画する森林（もり）づくり」に取り組んでいます。

森林環境税は、水源のかん養等の森林の持つ公益的機能を確保することが県民生活にとって重要であることから、森林環境の保全と森林をすべての県民で守り育てる意識の醸成に関する施策の財源として、県民税均等割に加算する方式で納めていただいています。

納めていただいた税金は、使途が特定されることから、「森林環境基金」を設け、他の財源と区分して積立て活用しています。また、事業実施にあたっては、第三者機関である「森林（もり）の未来を考える懇談会」の意見を伺うとともに、県ホームページで事業の実施状況を公表するなど、透明で公正な執行に努めています。

平成三一年度森林環境基金事業の当初予算額は一一億六、三四六万一千円で森林林業総室内四課、土地・水調整課、環境共生課、一般廃棄物課、建築指導課、高校教育課の計九課が担当します。このうち、森林計画課が実施する森林環境基金事業は次のとおりです。

①森林環境適正管理事業

ふくしま森林クラウドの導入、森林ＧＩＳの改修・運営とふくしま森まっぷの運営　七一、七三〇千円

②森林環境交付金事業

市町村が地域の実情に応じて行うきめ細かな森林（もり）づくりを支援

三〇六、四五四千円

③ふくしまから　はじめよう。森林（もり）とのきずな事業

森林環境に関する情報発信と、森林（もり）づくり活動の浸透・拡大等

一七、〇一七千円

④ふくしまの森林文化継承事業（一部）

福島県の森林文化調査、森林文化の公開体験等　四、八六〇千円

⑤森林環境等調査発信事業

小学校に導入された木製家具の使用状況を調査し発信

一、四〇〇千円

⑥森林環境基金運営事業

森林（もり）の未来を考える懇談会の運営等

三、七八二千円

■地域森林計画の編成等

地域森林計画は、森林の持つ多面的な機能が十分に発揮されるよう、森林の保全や森林整備の目標などの基本的な事項等を明らかにするとともに、市町村及び森林所有者等に森林施業上の指針及び規範を示し、その適切な施業の確保を図るため、民有林を対象として五年ごとに十カ年の計画を策定するものです。

本年度は、県北及び県南農林事務所管内を調査し、阿武隈川地域森林計画の樹立を行います。

八、二〇三千円

■森林整備地域活動支援交付金事業

森林の多面的機能を十分に発揮させるには、間伐等の森林整備を継続的に実施する必要があります。

当事業では、持続的な森林経営の実現や、計画的な森林整備の着実な実行に不可欠な「森林経営計画」の策定を推進するため、森林所有者や

福島県農林水産部

森林組合、林業事業体等が実施する次の取組を支援します。

①「森林経営計画作成促進」への支援

森林経営計画の認定を受けていない森林において、森林所有者や森林組合、林業事業体等が行う森林経営計画の策定のために必要な森林情報の収集・整理や、計画区域の検討、計画参画への森林所有者の同意取得等の活動を支援します。

②「森林経営計画作成促進（経営委託）」への支援

①に加え、森林整備に必要な森林の現地調査や路網調査を行い、その結果をもとに森林所有者に森林整備の提案を行う等、森林経営の委託契約を締結するための活動を支援します。

③「不在村者の現地立ち会い」への支援

①及び②の活動に際し、不在村森林所有者の現地立ち会いや合意形成活動を支援します。

④「森林の位置情報の確認」への支援

③に加え、ＧＰＳによる境界確定を支援します。

⑤「森林境界の明確化」への支援

地域森林計画において、境界の確認や測量に必要な森林情報の収集、境界が不明瞭な森林で行う境界の確認や測量、情報の整理・保存、市町村への情報提供等の活動を支援します。

⑥「施業集約化に向けた条件整備」への支援

施業集約化を進める上で重要となる既設路網の簡易な改良を支援します。　六、四六六千円

■ふくしま「林・農」連携モデル創出事業（林業）

中山間地域において、豊富にある森林資源を活用し、林業と農業が連携することにより、地域の活性化を図る取組を支援します。

①ふくしま「林・農」連携営林モデル創出事業

森林整備を行う森林組合等と木質燃料を製造する木材業者等が連携して薪やチップ等を営農組織等へ供給するとともに、林業生産活動を行う企業等へ生産物を還元し、農と林が有する資源の好循環を図ります。

ア　木質燃料生産施設等整備への補助

イ　林業企業等の森林資源利用農産物の利用企業認証制度　三七、二〇〇千円

■**林業成長産業化地域創出モデル事業**

森林資源を活用した地域の活性化を図るため、森林資源を循環利用し、林業の成長産業化を図ることにより、地元に利益が還元される取組を支援します。

①林業機械作業システム整備事業

森林整備の効率的かつ円滑な実施、林業再生の担い手育成及び林業生産コストの低減を図るために必要な高性能林業機械等の導入を支援します。　九、五〇八千円

②先進的モデル提案事業

林業の成長産業化を実現するために必要なソフト対策を支援します。　一〇、〇〇〇千円

■**森林環境モニタリング調査事業**

森林内において放射性物質の広域的・継続的なモニタリング調査を行います。

①森林環境モニタリング調査事業

森林における汚染状況の変化等を把握するとともに、放射性物質対策を推進するために、県内各地の民有林において、森林内の空間線量率や立木等の放射性物質の濃度を調査し、併せて調査結果の評価・分析等を行います。また、これまでに表土流出防止工、被覆工及び森林整備を施工した森林において、各工種の効果についてモニタリングを行い、空間放射線量率や放射性物質の動態変化についてデータの蓄積と解析を行います。　一五〇、〇〇〇千円

②ふくしま森林再生推進事業

森林環境モニタリング調査地周辺の森林や森林所有者情報の精度向上を図るため、衛星画像による樹種判読や登記情報に基づき森林計画図及び森林簿情報を更新します。また、森林再生事業等を推進するため、更新した森林計画図や森林簿情報を市町村へ配布します。　七〇、〇〇〇千円

③里山再生モデル地区放射線量等調査事業

里山再生モデル地区における森林の除染や間伐等森林整備等対策の効果を検証するため、施業前後の空間線量率や土壌・立木等の放射性セシウム濃度の測定を行います。　一一〇、〇〇〇千円

森林の整備と林内路網の整備

▼森林整備課

東日本大震災以降、本県の森林整備は停滞しており、森林の有する多面的機能の大幅な低下が懸念されます。このため、森林整備や路網整備を推進するとともに放射性物質の拡散防止を図る放射性物質対策に取り組みます。

また、平成二九年に発生した林道

災害により被災した林道施設の復旧について市町村を支援します。

■森林再生関係

原子力発電所の事故による放射性物質の影響を受けた森林の再生を図るため、間伐等の森林施業や路網の整備と、その実施に必要な放射性物質対策を行う市町村等事業の支援と県事業の推進に取り組みます。

①ふくしま森林再生事業
四、八〇八、一七六千円

②広葉樹林再生事業
七一、六〇〇千円

■森林整備関係

民有林を対象に、公共事業、森林環境基金により、林業事業体等が計画的に行う森林整備を支援します。

①一般造林事業（公共事業）
七〇四、四四二千円

②森林整備事業（森林環境基金）
四五三、〇九四千円

③森林資源造成支援事業（森林環境基金）
二八、九六六千円

■路網整備関係

森林の多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進や効率的で安定した林業経営の確立、山村地域の定住環境の整備等、森林整備の基盤となる路網の整備を促進します。

①林業専用道整備事業（県営）
四七九、四六五千円

②林業専用道整備事業（団体営）
九二〇、九六二千円

③林業専用道等改良事業（団体営）
一四、九四〇千円

④森林情報活用路網整備推進事業（県営）
一四六、二六〇千円

⑤森林管理道整備事業（県営）
二六一、四五〇千円

⑥森林管理道整備事業（団体営）
一四、八六八千円

⑦森林居住環境整備事業（県営）
二四六、三二三千円

⑧山のみち地域づくり交付金事業（県営）
四一〇、八八〇千円

⑨林道改良事業（団体営）
五〇、七一一千円

⑩林道舗装事業（団体営）
二〇九千円

⑪林道保全整備事業（団体営）
五、九七六千円

⑫県単林道事業（団体営）
一五、五七五千円

⑬森林整備促進路網整備事業（森林環境基金）（団体営）
一八、九〇〇千円

⑭間伐材搬出支援事業（森林環境基金）（団体営）
二四、七五〇千円

■公有林・種苗関係

公有林のうち、県営林については、県有財産の造成とともに県産材の需要に応えるため、伐採収入を確保しながら、間伐を実施します。

種苗では花粉症対策品種等の種子確保及び穂木供給に取り組むほか、コンテナ苗の供給体制整備等に取り組みます。

公益社団法人ふくしま緑の森づくり公社に対して、事業実施のための資金貸し付け等を行います。

①県営林の保育管理事業
一一八、八一〇千円

②育種育苗事業
六、九一九千円

③花粉の少ない森林づくり事業
一、五八五千円

④林業種苗生産施設体制整備事業
六六、一三一千円

⑤ふくしま緑の森づくり公社事業資金
七三二、三三六千円

⑥造林推進事業（林業基盤整備資金利子助成事業）
二〇、七九八千円

■林道災害復旧関係

豪雨などの異常気象等により林道が被災した場合に、市町村が行う災害復旧事業を支援します。

①林道災害復旧事業（現年災）
四〇四、六〇二千円

②林道災害復旧事業（過年災）
一〇八、六〇九千円

林業・木材産業の振興と担い手確保

▼林業振興課

林業振興課は、県産材の需要拡大等により、林業・木材産業の成長産業化を図るとともに、県内で生産される林産物の安全性を確保するため、「県産材製品の安全確認」や「安全なきのこ生産」に向けた事業を展開します。

■県産材の安定供給・利用促進・需要拡大

県産材の安定供給・利用促進・需要拡大を図るため、高性能林業機械のリース導入に要する経費の支援、新たな木材利用技術の導入・普及、公共スペースへの県産材製品の設置や児童・生徒への木育活動等、県産材による家づくりの普及、ペレットストーブの導入等の支援及び首都圏や海外への販路拡大支援を行います。

◆林業・木材産業金融の充実
七七六、八五七千円

①林業振興資金
②森林組合連合会事業振興資金
③木材産業等高度化推進資金
④林業・木材産業改善資金貸付金
⑤林業・木材産業改善資金管理指

導費

◆木材産業活性化事業　八二三千円
①木材業者登録事業
◆森林環境基金関係事業
一三九、二一七千円
森林資源の利用に向けた県民意識の醸成や木質バイオマスエネルギーの普及を図り、低炭素社会づくりを促進するための事業を行います。
①ふくしまの低炭素社会づくり推進事業
②もっともっと木づかい推進事業
③間伐材搬出支援事業
④地域林業技術伝承事業
⑤ふくしまの森林文化継承事業
◆ふくしま県産材競争力強化支援事業
一八、三〇〇千円
県内の事業者が有する付加価値の高い木製品や木材加工技術について、首都圏や海外への販路拡大活動支援を行います。

■林業就業者等の育成・確保

林業への新規就業の促進や、林業事業体への社会保障拡充支援、林業労働者の能力向上に対する支援など、総合的な担い手対策を展開します。
◆森林整備担い手対策基金事業
九二、二八八千円
森林整備を担う者の福利厚生の充実及び労働安全衛生対策、技術・技能の向上に資する研修、その他森林整備を担う者の確保・育成に関する事業を森林整備担い手対策基金を活用して実施します。
①新規参入等促進事業
②社会保障充実強化事業
③林業労働者等研修事業
④林業労働安全衛生確保総合対策事業　等
◆林業労働安全衛生対策
一、三九四千円
林業における労働災害は、いまだに発生頻度が他産業に比べ高い状況にあり、今後、林業労働力を安定的に確保する観点からも、安全で快適な職場づくりを推進する必要があることから、作業現場への巡回活動を積極的に実施します。

■林産物の安全性の確保

県内で生産される林産物の安全性を確保し、経営の安定と生産の回復を図るため、木材製品の放射線量の検査、安全なきのこを生産するために必要な生産資材の導入支援、原木しいたけ露地栽培等の実証事業などを実施します。
◆県産材安全性確認調査事業
四三千円
消費者の安全・安心を確保するため、製材品の放射線量を定期的に測定して安全性を確認し、その結果を公表します。
◆放射性物質被害林産物処理支援事業
六五四、〇〇〇千円
①汚染樹皮処理支援業務
②樹皮利活用安全性検証事業
◆林業構造改善事業
八六、八一一千円
①木材利用推進事業
②特用林産振興対策事業
③林業機械等リース支援事業
◆特用林産の振興
二七二、三八九千円
きのこ産業の振興を図るため、情報収集・栽培技術指導の業務を実施します。また、きのこ原木等の購入に伴う経費の一部を支援します。
①きのこ類振興対策事業
②安全なきのこ原木等供給支援事業
◆森林活用新技術実証事業
二〇、〇〇〇千円
放射性物質による広域汚染により、きのこ、山菜等の出荷制限やきのこ原木の供給に深刻な影響を及ぼしていることから、再生産に向けた実証を行います。
①原木しいたけ露地栽培実証事業
②広葉樹安定供給調査事業
③山菜生産再開のための技術検証事業
◆福のしま「きのこの里づくり」事業
一二、九六四千円
ほんしめじ等の県オリジナル品種による産地化を推進するため、生産技術の確立やモデル栽培地域における栽培技術指導等を行い、安定生産技術を生産現場において確立します。
◆林業試験研究施設の管理運営
四〇、〇四五千円
林業研究センター及び付帯施設を適切に管理運営します。

森林（もり）づくり活動の推進と安全で快適な県土の保全　▼森林保全課

森林保全課では、県民参加の森林（もり）づくり・緑化の推進及び森林病虫獣害から森林を守る森林保護、安全で快適な県土形成のための治山事業、保安林制度に基づく保安林の適正管理、民有林を開発する際の審査・指導に関する業務を担当しています。

■森林（もり）づくり活動の推進と森林保護

県民参加による森林（もり）づくり活動と緑化運動を支援するとともに、森林（もり）とのふれあいの場の提供や森林（もり）づくりの理念を発信する拠点を整備する

ことにより、第六九回全国植樹祭を契機に高まった県民の森林（もり）づくりへの意識を更に醸成し、将来へ引き継ぐための事業に取り組みます。

また、松くい虫やカシノナガキクイムシ等による被害から、貴重な森林を守るための防除対策や野生動物との共生のための里山林の整備活動を支援します。

◆森林（もり）とのふれあい・緑化活動の推進

①総合緑化対策事業
一〇、二二四千円

②森林総合利用対策事業
一〇七、五六三千円

③森林（もり）とのふれあい施設管理事業
九九、〇三〇千円

④ふくしま植樹祭開催事業
二〇、〇〇〇千円

◆森林環境基金事業

①森林環境学習の森整備事業
四、六二七千円

②森林づくり総合対策事業
一四、六二五千円

③里山林整備事業
三一、〇〇〇千円

◆森林保護

①森林病害虫等防除事業　等（松くい虫・カシノナガキクイムシの防除対策、山火事予防、林保険加入促進等）
六七、四六三千円

■治山事業による県土の保全

治山事業は、民有保安林の維持造成を通じて、山地に起因する災害から県民の生命・財産を保全するとともに、水源のかん養、生活環境の保全・形成を図り、安全で安心できる豊かなくらしの実現を図るうえで不可欠な事業です。

平成三一年度の治山事業は、従来の被災地復旧や森林の機能強化に加え、流木対策、防災・減災・国土強靭化対策に着手し、山地災害に対する減災対策を図るとともにコスト縮減等に積極的に取り組みます。

特に、復旧・復興の要となる海岸防災林造成事業や治山災害復旧事業は、着実に進展しており、今後も津波により失われた保安林の機能を確保するため、復興創生期間での完了を目指し、復旧・復興をさらに加速させます。

県単独治山事業については、国庫補助事業に採択されない復旧及び予防が必要な地区のうち、緊急性や優先度を総合的に勘案し、箇所毎の優先順位を適正に定め順次執行していくこととしています。

全庁的に展開している「地産地消の推進」については、県産間伐材を利用した森林土木工法の推進や平成十四年度から導入している治山ダムの間伐材型枠工等により、県産材の積極的な使用を推進してまいります。

また、森林ＧＩＳを活用し、最新の山地災害危険地区情報を県民に提供するなど、ソフト対策の充実を図ることにより、防災意識の高揚や避難態勢の整備が進められ、減災効果の向上に寄与することを期待しています。

◆一般治山費
八、七〇七、四五八千円

◆一般治山費（県単）
一三八、八〇八千円

◆災害関連治山費一一、二六一千円

◆県単治山費　七五四、三二六千円

◆治山災害復旧費
八〇四、九〇〇千円

■安全で快適な暮らしを守る保安林の管理と適正な林地の利用

現在、県内においては、森林面積の約四一㌫（ﾊﾟｰｾﾝﾄ）に当たる約四〇万㌶（ﾍｸﾀｰﾙ）の森林が保安林に指定されています。

水源の涵養（かんよう）や山地災害の防備、生活環境の保全・形成等、私たちの暮らしを守るために、特に重要な役割を果たしている森林を保安林に指定するとともに、立木の伐採制限や適切な施業の実施を推進するなどして、森林の保全と機能の維持増進を図ります。

併せて、保安林等を適正に管理するため、森林保全巡視員による森林パトロールを実施します。

さらに、森林において土石を採掘したり、林地以外に転用する行為が無秩序に行われると、森林の働きが損なわれ災害が発生する恐れがあることから、林地開発許可制度に基づき審査や指導を行い、開発規模が大きい場合などは、有識者の意見を聴くために森林審議会森林保全部会を開催します。

①森林保全管理事業
七、二三八千円

②保安林整備委託事業
九、八四二千円

③保安林整備管理事業
一五、〇四〇千円

防災林造成事業「相馬地区」

きのこセンターだより

平成30年度福島県きのこセミナーを開催

㈱福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター
（TEL 024-947-2188）

平成三一年二月十五日（金）、福島県農業総合センターにおいて、平成三〇年度福島県きのこセミナーを開催しました。きのこ生産者、県、市町村、各種団体等から約一〇〇名の皆様が参加され、熱心に受講されていました。

まず、「いわきから福島！福島から全国への挑戦！～量産化と高品質を追求した菌床シイタケ栽培の現状と課題～」と題して、農事組合法人いわき菌床椎茸組合の松本正美氏より講演をいただきました。いわき菌床椎茸組合のこれまでの歩みと今後の方向性についてお話しされ、風評への対応策として消費者を見極めてターゲットを絞ることが大切であることや、今後は他企業とアライアンスを結ぶことが重要であることなど、大変参考になりました。

続いて、「魅力あるきのこ栽培農家を目指して！～生き残りをかけたナメコ栽培農家の取り組み～」と題して、二本松市にある東和季の子工房の武藤一夫氏より講演をいただきました。武藤氏は、ご自身のこれまでの歩みと地域づくりのためにＮＰＯ法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会を立ち上げた経緯、ナメコ栽培と共に行っている農家レストランと農家民宿について、写真を使用して分かり易く説明され、他のきのこ生産者の方々も熱心に耳を傾けていました。

そして次に、福島県林業振興課主任主査の笠原航氏より「きのこ類振興策と県推奨品目などについて」と題して講演をいただき、最後に当センター職員の鳴美より「新品種の紹介と栽培のポイント」について講演を行いました。ここでは、県内きのこ産業について、栽培きのこの課題やその対応策、出荷の際の注意点等を説明するとともに、県の推奨品目としてホンシメジや、ナメコの「福島Ｎ５号」と「福島Ｎ６号」を中心にその特長や栽培方法等について紹介しました。

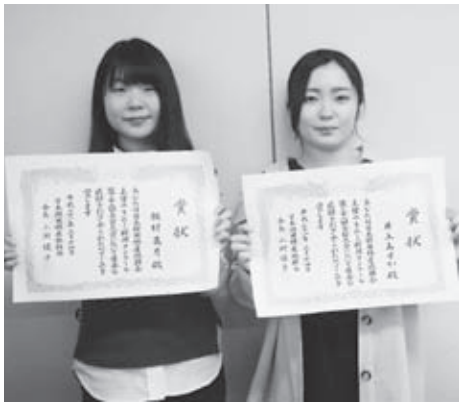
全体の質疑では、損害賠償に関する要望やほだ木の放射能指標値など原発事故関連の質問が多く、まだまだ復興へ向けた取組が必要であると感じました。今後とも、更なる復興・再生に向けて、情報発信をしてまいります。

平成30年度福島県きのこセミナーの様子（郡山市）

第三二回きのこ料理コンクール全国大会で入賞！

平成三一年三月十四日（木）、服部栄養専門学校（東京都渋谷区）で行われた「第三二回きのこ料理コンクール全国大会」において、郡山女子大学一年の井上あすかさんと郡山女子大学短期大学部一年の飯村菜月さんが福島県代表として出場し、井上さんは日本特用林産振興会長賞と日本産・原木乾しいたけをすすめる会長賞、飯村さんは日本特用林産振興会長賞と全国農業協同組合連合会長賞を受賞しました。

井上さんと飯村さんは、平成三〇年十一月二三日（金・祝日）に当協会主催で行われた「第三回福島県きのこ料理コンクール」において見事最優秀賞に輝き、福島県代表に選出されました。井上さんは、福島県の郷土料理である「いか人参」を使用した作品「きのこたっぷりさんまのけんちん蒸し～いか人参あんかけ～」を出品し、飯村さんは日本三大まんじゅうの一つで福島県の代表銘菓である「薄皮饅頭」をイメージした作品「愛ＬＯＶＥ福島しいたけうまかまんじゅう！」を出品し、全国大会でもその力を遺憾なく発揮しました。



受賞した飯村さん（左）と井上さん（右）

普及指導員通信

地域産木材の利活用推進のための取組（いわき普及地区）

福島県いわき農林事務所
林業普及指導員　古　川　成　治

１　はじめに

いわき地区の民有林面積は、58,039haで、このうち人の手を加える必要のある人工林の面積は33,039haで、人工林率は56.9％と県平均の36.7％を大きく上回っています。Ｘ齢級以上の林分も多く、利活用可能な林分が多い状況にあります。このような中、いわき市森林組合では、森林に付加価値を付け素材の差別化を図るため、いわき市三和地区の森林約6,800haを取りまとめ、平成30年４月１日に森林認証（SGEC）を取得したことから、その認証材を継続して安定的に出荷するための地域産の木材の利活用推進に向けた取組を紹介します。

２　課題等問題点の抽出

地域産木材の利活用推進を図るため、６月に公共建築物の発注者や木材調達事業者、木材加工事業者等50名の参加者で、三和地区のスギ材を内装材としてふんだんに使用している社会福祉法人福島県福祉事業協会「東洋学園」で研修を行いました。施設内の見学の後、森林組合からは森林認証取得についての取組の説明を受け、事務所からは持続可能な林業を目指す取組等を紹介し、地域産木材の利活用促進と森林資源の適正整備に向けた具体的な取組について関係者間で検討を進めることになりました。

また、森林認証の問題点について聞き取りを行った際、いわき市森林組合から、次の２点が挙げられました。

○森林認証は、取得するにも継続するにも多額の費用がかかるため、流通面でコストを下げる必要がある。

○材を安定して出荷するには、認証面積は6,800haでは少なく、もっと拡げる必要がある。

３　課題解決に向けた方向性

先に述べた課題を解決するための対策が必要と考えられたため、次の２点について指導しました。

○検討を進める場の設立

適切な森林管理と生産性向上による素材の持続的な供給体制を構築するとともに、山元への利益還元やバリューチェーンの確立を図り、持続可能な森林・林業を構築するため、磐城流域いわき地区林業活性化センターに働きかけ、年度内に課題を検討する組織を立ち上げるための指導等を行いました。

○森林認証の拡大に向けての対応

ICT技術を活用した森林の把握や認証材の伐採、輸送、加工に係るコスト削減と森林所有者等への利益還元による市内での森林認証の拡大を目指すための検討を行うとともに、国の公募事業に関わる資料作成等について指導を行いました。

４　おわりに

今後の普及活動に向けては、会議での検討内容や事業等で得られた結果について、普及指導員を含めた事務所職員でしっかりと議論したうえで整理し、整理内容をフィードバックしつつ、成果として積み上げていくことが重要であるため、迅速で効果的に行ってまいります。

地域産木材の利活用推進研修会

いわき市三和町の認証森林

森林管理署メモ

コボー沢
復旧治山工事

会津森林管理署

会津若松市大戸地区で実施している会津森林管理署の治山工事について紹介します。

当施工箇所は、国道一一八号線から分岐し、闇川集落を結ぶ市道闇川線の上部に位置しています。会津地方の主要な生活道路である国道一一八号線から、山腹上部に施工地である崩壊地が確認できます。

施工箇所は、脆弱な地質のため、過去から台風等の大雨の影響により崩落が度々起こり、当署の記録では昭和四五年から平成十四年までモルタル吹付工、土留工、落石防護柵工等の治山施設を設置して、崩壊、落石の対策を実施してきました。

しかし、平成二三年三月十一日、マグニチュード９・０を記録した東北地方太平洋沖地震が発生し、その後の相次ぐ余震により、最大斜面長八〇㍍、最大幅二〇㍍の規模で斜面上部の山腹崩壊が発生し、崩落土砂が既設土留工の背面や斜面内に堆積しました。

今後、大雨等によって山腹崩壊が拡大し、崩落土砂が、崩壊地直下の地元唯一の生活用道路である市道闇川線に被害を及ぼす可能性が懸念され、地元からの強い要望もあり、山腹崩壊の復旧計画を立てました。

コボー沢遠景写真（国道118号線から）

コボー沢施工中写真（遠景）

コボー沢施工中写真（近景）

コボー沢完成写真

復旧計画は①崩壊地最上部（源頭部）崩壊の拡大を防ぐため、不安定な状態となっている滑落崖の対策。②過去に施工した金網が破損等により機能を発揮していない箇所があるため、施工した箇所への対策。③急傾斜地で狭く限られた土地での施工の対策。④保全対象である市道闇川線への施工中の落石の対策。⑤急傾斜地での施工現場までの資材の運搬方法。⑥国道一一八号線から眺望できるので、景観への配慮等を検討しました。

検討した結果、滑落崖は大規模な地形の形状を変える必要が無く、狭い箇所で施工ができる硬鋼線（ワイヤロープで強度一、七七〇Ｎ／平方㍉㍍以上）を使用した、高強度ネットと鋼鉄アンカーを組み合わせた、高強度ネット工で滑落崖及び斜面を安定させることとしました。

その結果、資材の単位当たりの重量を抑えることができ、資材運搬に大がかりな施設は必要なく、施工できました。

また、硬鋼線は、濃い茶色にして、景観になじむ様にしました。

現場は、傾斜が急峻で大きな機械を入れることが容易ではない高所での施工など、非常に厳しい現場条件の中でしたが、十分な安全対策を行い、確実に作業を進め、本年度の工事は無事終了できました。

地元の方の強い要望がありますので、今後も引き続き安全作業に留意しながら山腹崩壊の早期の復旧に向けて取り組んでいきます。

木連だより

放射線検知装置の設置による安全な県産材の出荷体制整備

福島県木材協同組合連合会

安全・安心な福島県産材を需要者に供給するため、福島県木材協同組合連合会では放射能に対する素材及び製材品の検査体制の構築を進めてきています。平成三〇年度には、国の事業で開発した各種検知装置を県内の木材市場やチップ工場等に設置することにより、安全な県産材の出荷体制を強化することができました。

1．設置した検知装置

(1)　トラックスケール用検知装置

台かん（秤）の両脇に検出器を設置し、トラックを挟むように丸太の放射線量を測定する装置であり、台かんのあるチップ工場等に設置しました。

(2)　選木機用検知装置

選木機の丸太搬送ラインを挟むように検出器を設置し、丸太一本ごとに放射線量を測定する装置であり、選木機のある木材市場等に設置しました。

(3)　集成材（製材品）ライン用検知装置

製材品の搬送ラインを挟むように検出器を設置し、製材品一本ごとに放射線量を測定する装置であり、製材ラインのある大型製材工場に設置しました。

(4)　非破壊検査装置（セシウムチェッカーミニ）

幅三四センメートル、奥行二九センメートル、高さ一〇センメートルの資材格納スペースに、バークや輪切りにした製材品等の資材を投入し放射性物質濃度を測定する装置であり、(1)～(3)の検知装置を導入した事業所や要望のあった製材工場等に設置しました。

2．各種検知装置の設置事業所

平成二九年度までにトラックスケール用検知装置一台、選木機用検知装置七台、製材ライン用三台設置しており、平成三〇年度には二四の製材工場等へ多くの装置を設置することができました。

＊H29以前～H30装置設置先一覧表＊　　H31．３．13

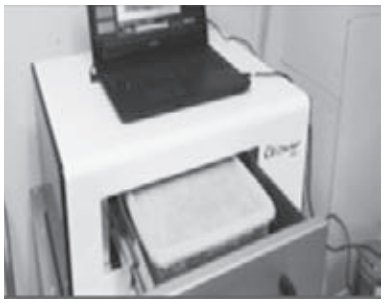
地区	企業名	住所	H30検知装置種類と台数				H29以前検知装置種類と台数			
			トラック	選木機	製材品	Csミニ	トラック	選木機	製材品	Csミニ
県北	福島県木材協同組合連合会	福島市中町								1
	南東北木材㈱	伊達市伏黒				1		1		
	有福島原木C	福島市二子塚	1			1				
	吾妻林業㈱	福島市桜本	1			1				
	有国見興産	伊達郡国見町	3			2				
県中	郡山地区木材製材協	郡山市田村町	1		1	1		1		
	郡山チップ工業㈱	郡山市西田町	1			1				
	㈱アメリカ屋	石川郡玉川村	1			1				
	田村森林組合	田村市常葉町				1				
	浜崎製材㈱	本宮市高木	1			1				
	㈱増子建築工業	郡山市富久山町				1				
県南	協和木材㈱	東白川郡塙町			3	2	1	1	2	
	東白木材市場	東白川郡塙町				1		1		
	協奥久慈木材流通C	東白川郡塙町				1		1		
	㈱ミツヤマGP（グリーンプロジェクト）	白河市大信	2			1				
相双	朝田木材産業㈱	双葉郡浪江町	1		1	1				
	千葉製材所	南相馬市原町区	1	1		2				
	関場建設㈱	南相馬市原町区							1	
いわき	㈱平木材市場	いわき市内郷綴町				1		1		
	いわき木材流通C	いわき市遠野町		1		1		1		
	滝口木材㈱	いわき市泉町				1				
	清野木材㈱	いわき市勿来町				1				
	㈱荒川材木店	いわき市勿来町			1					
	協いわき材加工センター	いわき市勿来町		1	1	1				
	遠野興産㈱	いわき市遠野町	3			4				
	磐城林業協同組合（林業研修センター）	いわき市常磐藤原町				1				
計			16	3	7	29	1	7	3	1

3．放射線検知装置等管理運営協議会の設立

平成三〇年九月、検知装置を設置した二四事業者により「放射線検知装置等管理運営協議会」を設立しました。設置した検知装置を維持・管理していくには、年一回の校正費用や修理費等の管理費が予想されることから、当協議会では当面の活動として、国及び東電への支援要請活動や放射能に関する研修会などを予定しています。

(1)トラックスケール用検知装置

(2)選木機用検知装置



(4)非破壊検査装置(セシウムチェッカーミニ)

(3)集成材(製材品)ライン用検知装置

木の文化を育む①

木の文化の継承と木育

郡山女子大学　准教授　阿　部　恵利子

○はじめに

私は、福島県における木材利用状況の調査や大学生に対する木育を実践し、木材利用の活性化につながる研究に取り組んでいます。

地域に伝わる伝統的な建築技法や住宅様式、生活文化を後世に伝えることが難しくなってきている今日、木の文化を継承していくこと、自然・景観の保全、地域の活性化につながる経済サイクルを確立することは、今後の地方創生において非常に重要であると考えています。特に県土面積の七一㌫が森林である福島県において、この経済サイクルを確立することは、次世代に木の文化を継承していくうえで不可欠であると考えます。

近年、木造建築物の建設に際し、地域材を使用して建設することを条件に掲げるプロジェクトが多く見られます。地域材を活用した住宅や施設等の建築には、木材の生産、流通、技術などに関わる地域の総合力が必要とされることから、地域の工務店・職人の仕事の確保にもつながるなど、その波及効果は地域経済における大きなメリットにつながることが期待されています。さらに将来、木造や木材に関わっていく可能性が高い建築の学生に木材の特性を伝え、その利用に関心を持たせること、すなわち「大学生に対する木育」は、地域経済を担う建築学生の育成として必要性を感じているところです。

そこで、「木の文化を育む」シリーズ①では、郡山女子大学人間生活学科建築デザインコースで実践した大学生への木育を紹介します。

○大学教育における木育の試み

大学における建築教育の現状は、細分化された専門教育から成り立っており、木造や木材に関わる内容については「建築構造」や「建築材料」の教科目で講義していますが、学生が実際に木材を見て、触れて、感じるという機会は極めて少ない現状にあります。

郡山女子大学建築デザインコースでは、「森林整備加速化・林業再生事業」を好機と捉え、産学官連携体制のもと木育の実践として、福島県における課題の一つである木製品の開発に取り組みました。

○木製品の開発

開発した木製品は、小学生を対象とした木育教材「木製かるた」や東日本大震災の復興に関わるオブジェ等です。

製作した「木製かるた」を使用した小学校では、地域の学習でも利用できる、との感想も得られ、大変好評でした。また、成果品の一つである避難施設のパーテーションは、震災時、二次避難で阿武隈養護施設に避難された方々より「木の香りが良くて癒される」「ちょうどいい高さだ」「安定感があって落ち着く」などの感想が寄せられました。

木製かるた

避難時のパーテーションは、段ボールや布が一般的でしたが、今後は躯体の一部として取り入れるなどの工夫も望まれます。

○木の文化の継承を目指して

地域の人々が木の文化や木材利用への関心を持ち、自然・景観の保全について、考える機会をもつこと、また、そうした人材を育成することも、木の文化の継承には不可欠です。今後も継続的に産・学・官・民が連携して木材利用を推進していくための取組や、木材への親しみ、木の文化を伝える教育体制を推進し、地域の活性化につながる経済サイクルを確立することが大切であると考えます。

避難施設のパーテーション

木材市況

十二月の原木市場への入荷状況は、前月比三㌫減（前年比四㌫減）の二五、三八六立方㍍となっている。

販売量は、前月比一三㌫減（前年比一㌫減）の二五、三七八立方㍍となっている。

平成三〇年一～十二月の取扱量は、入荷量は前年比変わらずの三〇六、三九〇立方㍍、販売量は前年比四㌫増の三一四、四四八立方㍍となっている。

一月の価格は保合いとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2019年１月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	10（10～10）	0	（0～ 0）		9（8～10）	0	9（8～10）	0
		10~14		並		13（13～14）	0	（0～ 0）		12（12～13）	0	13（12～14）	0
	中	14~22	3.00	並	スギ	13（12～15）	0	11（11～11）	0	14（14～14）	0	13（11～15）	0
				並	ヒノキ	19（16～22）	0	18（18～18）	0	17（17～17）	0	18（16～22）	0
			6.00	並	スギ	17（15～18）	1	13（10～15）	0	17（17～17）	0	16（10～18）	0
				並	ヒノキ	30（25～35）	0	（0～ 0）		23（20～25）	0	26（20～35）	0
		20~28	3.65	並	スギ	13（12～15）	0	11（10～13）	0	14（13～15）	0	13（10～15）	0
			4.00	並		13（13～13）	0	12（12～12）	0	14（13～14）	0	13（12～14）	0
			4.00	並	アカマツ	9（7～12）	0	（0～ 0）		10（9～11）	△ 1	9（7～12）	△ 1
			1.80	並		8（5～11）	0	（0～ 0）		8（8～ 9）	0	8（5～11）	0
外材	米材(定尺)	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～ 0）		（0～ 0）		30（29～30）	0	30（29～30）	0
				並	米マツ	（0～ 0）		39（39～39）	0	29（28～29）	0	32（28～39）	0
	北洋材(定尺)	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～ 0）		（0～ 0）		27（25～29）	0	27（25～29）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～ 0）		（0～ 0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
				並	カラマツ	（0～ 0）		（0～ 0）		23（20～25）	△ 3	23（20～25）	△ 3
パルプ用材				並	マツ	7（7～ 7）	0	（0～ 0）		6（6～ 6）	0	6（6～ 7）	0
				並	広葉樹	10（10～10）	1	（0～ 0）		7（7～ 7）	0	8（7～10）	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	（0～ 0）		7（6～ 9）	0
	13~14		並	カラマツ	（0～ 0）		8（7～ 8）	0
	16以上		並	カラマツ	（0～ 0）		10（9～11）	0

注）1．前月差の△印は値下りを示す。
2．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
3．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

「ありがとう　かしまの一本松」

相双農林事務所　野村智宏

東日本大震災の津波に耐え、復興のシンボルとなっていた南相馬市鹿島区南右田の「かしまの一本松」。

長きにわたり南右田を見守ってきたクロマツは、地元の方々の希望となり、復興に向けた営みを温かく見守ってきてくれました。残念ながら、状態の悪化により平成二九年十二月二七日に、地元住民らでつくる「かしまの一本松を守る会」の五賀和雄会長を始め約一〇〇名の参加者に見守られながら伐採されました。

伐採された一本松は、「守る会」のメンバーが地元の製材業者らに依頼し、「表札」約一五〇枚分がとれたとのこと。昨年九月に地元住民や支援者などに配布されました。

今後、伐採跡地には、海岸防災林として、その一角に一本松の種から育てられた子孫が植栽される予定となっています。

「一本松」周辺の海岸防災林復旧

「一本松」の伐採

「一本松」で作られた表札

伐採された「一本松」

はなしのひろば

音楽

私は、朝はラジオ派だ。ラジオから流れてくる音楽に朝の心が和む。ある朝、ラジオからジャズが流れてきた。そのジャズが春めいてきた淡い朝を軽やかにしてくれる。こんな朝は、ジャズのリズムにほどよく体の力がぬけ、心もリズミカルになる。

私たちの生活は、様々な音に囲まれている。その音を拾ったり、捨てたり、そこにリズムや強弱、高低、音色が作り手の感性で加工され、音楽になる。ビバルディ作曲四季「春」には、音楽通ではない私にも小鳥のさえずりが聴こえ、膨らんできた空気までもが感じられる。この自然の音も感情も楽器で表現しようとする欲張りな感性は、人間の音を楽しむ本能だろうか。桜前線が北上し始めたこの時期、桜の蕾が膨らんで咲き始める音はどんな表現になるだろう。

音楽の起源は、かつて農作業や狩猟のかけ声や合図、戦の信号、言葉のイントネーションが感情と共に抑揚したものらしい。また、最古の楽器は、今から三六〇〇〇年前のドイツの洞窟で発見されたハゲワシの骨でできた笛らしい。この骨に息を吹き込んで、音をだそうとしたのも本能だろうか。そしてどんな音色だったのか、とても気になる話だ。一方、一二〇〇年以上の歴史をもつ日本の雅楽は、流れを感じる西洋音楽と違って音がたちのぼっていくようだ。

二〇二〇年四月には「オリンピック・マーチ」等で有名な作曲家古関裕而と金子さんご夫婦の物語「エール」（ＮＨＫ朝ドラ）が始まる。古関作曲の行進曲には「前に進んでいきましょう」と音楽が引っ張ってくれる強さと揃う足並みの軽快さがある。音楽は、時代を越えても色褪せることなく、その時代を生きている人々の心の琴線をふるわせる。そして、編曲する音楽家の感性で音楽の形は自由自在に変わり、表現を変えていくことができるのも音楽の醍醐味だ。

（都）

表紙の写真

「春やすらぎ」

第33回ふくしま緑の写真コンクール入選

受賞者　田子保浩さん（いわき市）

撮影場所：いわき市

編集　福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
（福島市中町五番一八号県林業会館内）

発行人　水戸典明

発行　陽光社印刷株式会社

（定価　一〇八円）

お知らせコーナー

平成31年度 一般財団法人福島県林業会館 フォレスト助成金（協賛）事業の募集要項

１．趣　　旨　一般財団法人福島県林業会館（以下、「林業会館」という。）は公益事業としてフォレスト助成金（協賛）事業を募集します。

２．総　　額　4,500千円

３．募集事業の内容

（1）対象事業　イ．森林の整備　ロ．木材の利活用　ハ．特用林産の振興　ニ．森林・林業教育学習
ホ．森林とのふれあい推進　ヘ．森林・林業に関するその他必要と認める事業

（2）事 業 費　一事業あたりの助成金（協賛）額は、原則として20万円以内とします。

４．助成（協賛）対象者

（1）県内の林業に携わる県内所在の団体であること
（2）交付条件を遵守することが確実であること
（3）交付金によって目的事業を実施することが確実であること

５．申請方法

（1）申 請 手 続　事業の目的、内容、交付申請額を福島県林業会館事務局まで提出してください。
詳細は事務局まで電話でお問い合せください。
（2）事業の実施期間　平成31年４月１日から１年以内
（3）受 付 期 間　平成31年４月１日から５月末日まで

６．事業の採択決定

（1）林業会館が設置する「フォレスト助成金審査委員会」で選定します。
（2）事業の採決は、１団体原則６回までとします。
但し、審査委員会で事業継続懸念なしと認めた団体は除きます。

７．応 募 先　〒960-8043　福島市中町５番18号　一般財団法人福島県林業会館事務局あて
TEL・FAX 024-522-2407

備えのパートナー 森林保険

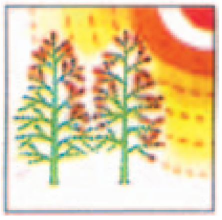
こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

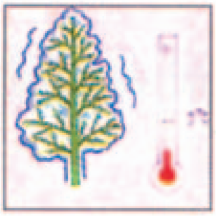
2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害
乾燥による枯死などの損害



6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談･お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ

GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI INDUSTRIAL CO., LTD.

傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ
- 最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- 全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- 大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新の GP-8 コントローラを搭載
- 5.7 インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
- 感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
- A,B,C,D の 4 コード毎に 4 種類、合計 16 種類の測長設定値
- 樹種を 4 種類登録でき、個別に測長調整値の設定が可能
- 材積集計機能を標準で搭載

新開発のスタッドローラ（オプション）
- 鉄輪の全周に装着された無数のスタッド（鋲）が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
- 特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンスが容易

For the future with forest

イワフジ工業株式会社
http://www.iwafuji.co.jp/

（北関東支店） 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
（本社・工場） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
（支　　店） 札幌･東北･北関東･関東･中部･関西･九州

林業福島 四月号 通巻第六五六号
昭和四十二年二月二十四日第三種郵便物認可
平成三十一年四月一日発行（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 水戸 典明
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一〇八円
年間購読料一、九〇〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤
ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤
ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート
くん蒸与作シート

ハチ退治
ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ　TEL. 03(6740)7777
平日 9:00~17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional
BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional
GZ3950EZ
排気量 39.1cc
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR
刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100
破砕径：200mm 出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1